



かわせ てつあき
川瀬 哲明 教授

～ 聴覚・言語障害学分野 ～

講義題目

聴覚研究と医工連携

【略 歴】

1982年 3月 東北大学医学部卒業	1993年 4月 東北大学医学部附属病院助手(復職)
1982年 4月 東北大学医学部附属病院研修医	1993年10月 岩手県立宮古病院
1984年 5月 東北大学医学部附属病院助手	1994年10月 東北大学医学部附属病院助手
1985年10月 平鹿総合病院	1995年 4月 東北大学医学部附属病院講師
1986年10月 東北大学医学部附属病院助手	2002年 1月 東北大学大学院医学系研究科助教授
1988年 9月 仙台市立病院	2008年 4月 東北大学大学院医工学研究科教授
1989年 7月 東北大学医学部附属病院助手	2023年 3月 退職
1990年 4月 ハーバード大学 リサーチフェロー	

【研究業績等の紹介】

川瀬哲明教授は、1982年3月に東北大学医学部を卒業後、直ちに東北大学医学部耳鼻咽喉科学教室に入局し、河本和友教授、高坂知節教授、小林俊光教授に師事されました。1989年9月に学位論文「メニエール病の聴力変動に関する臨床的ならびに実験的研究」により学位（医学博士）を取得され、1990年4月から3年間、米国 Massachusetts Eye and Ear Infirmary, Harvard Medical School, Liberman 教授の元に留学し、動物を対象にした雑音下の音受容における蝸牛遠心性神経の役割に関する神経生理学的研究や蝸牛神経の神経解剖学的研究に従事され、雑音下の聞き取りにおけるオリブ核蝸牛遠心性神経システムの anti-masking 効果を明らかにされました。帰国後は、難聴、耳鳴、めまい、補聴器、人工内耳、中耳手術などの耳科、聴覚医学分野の臨床、教育に尽力するとともに、ヒトを対象とした聴覚メカニズム、並びにその病理に関する医工連携研究を展開されました。具体的には、1) ヒトにおけるオリブ核蝸牛遠心性神経システムの anti-masking 効果の解明、2) 音響性耳小骨筋反射の生理学的特性と音受容における役割解明、3) 音響学的手法を用いた耳管開放症の病態解明と評価法の確立、4) 聴性誘発脳磁界反応を用いた中枢聴覚情報処理システムの解明、5) 雑音下の信号聴取における両耳聴効果の役割並びに、同効果を用いた補聴シス

テムの考案、6) 視覚-聴覚マルチモーダル情報処理の中枢メカニズムの解明と難聴耳聴覚トレーニングへの応用、7) Listening difficulties における、選択的注意とカクテルパーティー効果（雑音下の音声聴取）の病理に関する研究、8) 機能性難聴の聴覚特性と背景病理の解明、などの研究に精力的に取り組まれました。また、これらの基礎的研究で明らかにされた難聴、聴覚障害の病態生理に基づく臨床研究として、難聴耳の聴覚再建、聴覚補償医療に必要な残存聴覚能の正確な評価法の確立、並びにその評価結果に基づく機能補償、再建法、効果的なリハビリテーション法の開発を、東北大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室（主任：香取幸夫教授）との強い連携のもと推進されました。